

[特 集]

教職志望学生のICT活用指導力についての実態調査

— BYOD の導入が ICT 活用指導力に与える効果について —

田中 未央

A survey of the current situation regarding the ICT-based teaching skills of students who are in the teacher-training curriculum.

— The impact of the introduction of BYOD on the ICT-based teaching skills —

TANAKA Mio

要約

本研究では、教育学部に在籍している学生を対象にICT活用指導力の実態調査を実施し、従来のカリキュラムで学生が習得できるICT活用指導力の要素と、従来のカリキュラムでは習得が難しい要素について検討した。その結果、1) 授業の準備や教材の作成に必要なパソコンのスキルやインターネットを使用した情報収集のスキルといったICT機器やアプリケーションを活用する力、2) インターネットを介したコミュニケーションや情報発信の際に理解するべきルールなどの情報モラルについて指導する力については従来のカリキュラムにおいて習得可能であることが示唆された。しかし、1) ICT活用の利点を理解し授業や学習活動に効果的に活用する力や、2) 授業や学習活動で児童にICTの活用を促すための指導力、3) インターネットの安全な使用や情報管理に必要な情報セキュリティを指導する力、の3つの要素については、従来のカリキュラムのみで習得することは難しいことが示唆された。

キーワード：ICT活用指導力、BYOD (Bring Your Own Device)、教員養成系学部

In this study, we conducted a survey of the current situation of ICT-based teaching skills among students who are in the Faculty of Education, and examined the elements of ICT teaching skills that students can acquire through the existing curriculum and the elements that are difficult to acquire. As a result, it was suggested that the existing curriculum is sufficient to provide 1) the skills to use ICT devices and applications, for creating teaching materials and structuring lessons, and 2) the skills to teach information ethics. However, It was suggested that the three elements are difficult to acquire through the existing curriculum alone; 1) the ability to understand the benefits of ICT use and to use it effectively in teaching and learning activities, 2) the ability to teach children to use ICT in learning activities, and 3) the ability to teach information security, which is necessary for safe use of the Internet and information management.

Keywords: ICT-based teaching skills, BYOD (Bring Your Own Device), Faculty of Teacher Education

1. はじめに

(1) 教育現場におけるICT活用の促進

2011年に文部科学省から「教育の情報化ビジョン」が示され、学校での教育活動や学校経営にICT（Information and Communication Technology: 情報通信技術）を積極的に活用することが求められてきた（文部科学省、2011）。近年、学校現場ではICTを活用した授業実践が積極的に行われるようになってきた。例えば、橋澤・東原（2012）では、表現過程を再現できるデジタルペンスystemを導入した国語・算数・図画工作の授業実践について報告している。橋澤・東原（2012）によると、授業中にデジタルペンを使用して児童に問題の解法や自分の考えを記述させ、記述内容を一文ずつ再現しながら発表や回答の比較を行わせたところ、発表する児童が内容のまとまりで区切ることを意識できるようになり、相手の理解を確認しながら発表するといった効果が確認された。さらに、授業者においても児童の理解度や思考内容についての見落としに気づくことができたと報告されている。立石ら（2014）では、小学校算数の授業でタブレット端末を導入した授業実践について報告されており、タブレット端末と授業支援ツールを使用することで、児童それぞれの考え方や意見の集約と提示、比較が容易になり、発展的な授業内容が展開につながった一方で、授業者の発話が増加し児童の発話機会が減少してしまうという問題点が指摘されている。このように、ICTの活用は授業や学習活動の質的向上に寄与するものであるが、その導入方法や使い方によっては授業内容や学習活動の質的向上の妨げとなってしまう場合がある。したがって、教育活動の主体となる教員が授業や学習活動の場面で効果的にICTを活用するためのスキルや能力（ICT活用指導力^{注1}）が必要とされている。

(2) 学校におけるICT活用指導力の現状

文部科学省は教員のICT活用指導力チェックリストを作成し、教員がICTを活用した教育活動を行うために必要な能力やスキルを示している（文部科学省、2007; 2018）。2018年に公表された改

訂版によると、教員に必要とされるICT活用指導力として、(A) 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力、(B) 授業にICTを活用して指導する能力、(C) 児童生徒のICT活用を指導する能力、(D) 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力、の4つの要因が求められている（文部科学省、2018）。2007年にチェックリストの初版が公開されて以降、教員のICT活用指導力の実態については「教員のICT活用指導力チェックリスト」を用いた全国調査が毎年、行われている。2024年10月に公表された実態調査の結果（文部科学省、2024）によると、上記に示した(A)から(D)の4要因すべてで、80%以上の教員が肯定的な自己評価（「概ねできている」または「できている」と回答）をしている。とくに、コンピュータやインターネットを使用した授業内容の計画や、パソコンを使用した授業資料や教材作成のスキルに対しては90%以上の教員が「できる」と自己評価しており、教材研究や授業準備にICTを活用すること、ICTを導入した授業の実施については積極的な実践がなされていると考えられる。また、児童生徒がインターネットを安全に利用するための指導ができるかどうかについても90%以上の教員が肯定的な自己評価をしており、児童生徒のICTリテラシーに関する指導においても積極的な実践が行われていると思われる。一方で、授業や学習活動の場面で、児童生徒にコンピュータや学習アプリケーションを使用した学習方法を指導することに対する自己評価が低く、児童生徒自身がICTを活用する力の向上についての指導の実践には課題があることがうかがえる。

(3) 教員養成課程におけるICT活用指導力育成の現状

2013年6月に示された「第2期教育振興基本計画」では、ICTを積極的に活用して指導方法や指導体制の工夫、改善ができるよう、教員のICT活用指導力向上のために必要な施策を積極的に講じることが明記されている（文部科学省、2013）。「教育の情報化ビジョン」では、ICT活用した教育活動ができる教員を育成するために、教員養成学部や教職課程では、授業や実習を通じて学生が

情報通信端末やデジタル機器、さまざまなソフトウェアに触れる機会を充実させることが必要であると言及されており、教員養成課程では、教育活動にICTを活用するための基礎的能力を備えられるようなカリキュラムの整備が現在の課題だといえよう。

「教育の情報化ビジョン」にしたがってICT活用指導力を育成するための新たなカリキュラムを整備するためには、従来の教員養成課程のカリキュラムを履修する学生がICTを活用する能力やスキルをどの程度習得しているかの実態を把握し、従来のカリキュラムでは習得が難しい能力やスキルが何かを明確にすることが必要である。現職教員のICT活用指導力については2007年から継続して実態調査が実施され、実態の把握がなされているが、教員養成課程に在籍する学生の実態を把握するためのエビデンスは少ない。例えば、竹野ら（2011）では、教育学部に在籍する学生を対象にICT活用指導力の実態調査を実施し、教職志望の学生の場合、インターネットを活用した情報収集やパソコンを使用した文書や資料の作成、プレゼンテーションソフトなどの基本的アプリケーションを使用するスキルに対しては肯定的な自己評価をしている一方で、授業計画や児童生徒の学習指導にICTをどのように活用できるかについては否定的な自己評価をしていることが示されている。森下（2014）で行われた教員養成系学部 に在籍する学生を対象とした実態調査でも竹野ら（2011）と同様の結果が示されており、従来の教職課程のカリキュラムではICTをどのように授業計画や学習指導に組み込んで活用するかについてイメージすることが難しいと考えられる。

（4）本研究の目的

先行研究では、ICT活用指導力に影響する要因についても示唆されている。竹野（2011）では、早期から自分専用のパソコンを所持し、パソコンやインターネットの利便性を認識している学生は、自分専用のパソコンを持たない学生よりもICT活用指導力全般に対して肯定的な自己評価をしていること、また、パソコンへの興味関心が強い学生で、自身のICT活用指導力についてより

肯定的な評価をしていたことを示した。このことから、パソコンをはじめとする情報機器を自由に使用できる環境を有することは、ICT活用への興味関心を高め、ICT活用指導力を身につけるために重要な要因であることが考えられる。

近年ではデジタル技術の発達、情報端末の普及によって個人所有の端末を職場や学校で使用する（BYOD: Bring Your Own Device）が増加している。大学ICT推進協議会（AXIES）が実施したBYODの取り組みに関する調査によると、4年制大学の75%が全学または一部の学部でBYODを導入している（大学ICT推進協議会、2018）。筆者が在籍する敬愛大学でも2024年4月入学者から全学部でBYODが導入され、コンピュータ教室の収容人数や利用可能時間といった施設の制約にとらわれずにパソコンを利用できる学生が増加した。したがって、BYODが導入された敬愛大学教育学部の学生は、先行研究において実施された実態調査の対象学生よりもパソコンやインターネットの自由な利用が可能な環境にあるため、ICT活用指導力の実態が先行研究とは異なる可能性が考えられる。そこで、本研究では、BYODが導入された2024年度4月に入学した教育学部の学生を対象に調査を実施し、ICT活用指導力の実態を把握することとした。

2. 調査方法

（1）調査対象者

調査対象者は2024年4月の敬愛大学教育学部入学者65名（男性35名、女性26名、未回答4名）であった。

（2）調査項目の構成

本調査は「教員のICT活用指導力チェックリスト改訂版」（文部科学省、2018）の項目を使用して構成された。「教員のICT活用指導力チェックリスト」は、4つの大項目（A：教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力、B：授業にICTを活用して指導する能力、C：児童生徒のICT活用を指導する能力、D：情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力）について「わりにできる」「ややできる」「あまりできない」「まっ

たできない」の4件法で自己評価させるものである。4つの大項目は、それぞれ4つの下位項目で構成されているため、チェックリストの総項目数は16項目である。本調査では、評価対象がより明確になるよう文章の表現を一部変更して使用した。項目の表現は1項目につき評価するスキルや能力がひとつになるよう変更したため、2つ以上の評価対象が含まれる項目は複数に分割した。そのため、本調査の総項目数は29項目であった。

(3) 実施方法

本調査はGoogle Formを使用し、Web調査として実施された。2024年10月に、教育学部1年生の必修科目である「情報処理Ⅱ」の授業時間の一部を使用して実施した。対象者は各自で指定されたURLからGoogle Formにアクセスし、調査票に回

答した。回答時間はおよそ15分であった。

3. 結果

ICT活用指導力について自己評価する各項目に対する回答の分布を表1から表4にまとめた。

(1) 大項目A：教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力

大項目Aに対する回答を下位項目ごとにまとめた結果を表1に示す。肯定的な回答（まあまあできる・できる）の割合が80%を超えた項目は7項目で、授業の準備や校務において文書作成ソフトなどの基本的アプリケーションを使用するスキルを評価するもの（A-4・A-5・A-7・A-8（1）・A-9）、授業や授業の準備にインターネットを活用するスキルを評価するもの（A-2・A-3）であった。この

表1 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力に対する回答の割合（%）

教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	項目	ほとんど できない	あまり できない	まあまあ できる	できる
	A-1 授業の教育的効果を上げるために、コンピュータの利用場面を計画して活用できる。	3.08	21.54	49.23	26.15
	A-2 授業の教育的効果を上げるために、インターネットの利用場面を計画して活用できる。	4.62	13.85	53.85	27.69
	A-3 授業で使う教材や資料を集めるためにインターネットなどを活用できる。	1.54	3.08	36.92	58.46
	A-4 保護者とのコミュニケーション（欠席の連絡など）を円滑にするために、パソコンやスマホの機能を適切に活用できる。	0.00	9.23	38.46	52.31
	A-5 授業に必要なプリントや掲示資料を作成するために、ワープロソフト（Wordなど）を活用できる。	1.54	7.69	46.15	44.62
	A-6 授業に必要なプリントや掲示資料を作成するために、表計算ソフト（Excelなど）を活用できる。	3.08	26.15	50.77	20.00
	A-7 授業に必要なプリントや掲示資料を作成するために、プレゼンテーションソフト（PowerPointなど）を活用できる。	1.54	9.23	40.00	49.23
	A-8（1）学級経営や仕事に必要な文書や資料を作成するために、ワープロソフト（Wordなど）を活用できる。	3.08	12.31	46.15	38.46
	A-8（2）学級経営や仕事に必要な文書や資料を作成するために、表計算ソフト（Excelなど）を活用できる。	6.15	29.23	49.23	15.38
	A-9 学級経営や仕事に必要な文書や資料を作成するために、プレゼンテーションソフト（PowerPointなど）を活用できる。	3.08	6.15	50.77	40.00
	A-10 学習状況を把握して評価に活用するために、児童の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理できる。	6.15	21.54	52.31	20.00

結果から、教職課程を履修してまもない学生であっても、教材の作成や校務に必要とされる基本的なアプリケーションを使用するスキルや、教材研究などにインターネットを活用するスキルを有していることがうかがえる。一方で、コンピュータを利用した授業計画を立てることに 대해서는 否定的な回答（まったくできない・あまりできない）が他の項目よりも多く、ICTを活用した授業内容を構成することは学生にとって難しいことである可能性が高い。また、文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトの使用については肯定的な回答が多かったが、表計算ソフトの使用やコンピュータを使用した課題や成績の管理については否定的な回答も多く、ICTを活用した情報管理のスキルには課題があるといえる。

（２）大項目Ｂ：授業にICTを活用して指導する能力

大項目Ｂに対する回答を下位項目ごとにまとめた結果を表２に示す。肯定的な回答の割合が80%を超えた項目は「B-1：生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータなどを活用して資料を効果的に提示できる」のみであった。一方、授業や

学習の内容を深めるためのICT活用方法について評価する項目（B-2・B-3）、授業や学習活動において児童生徒に活用させる指導について評価する項目（B-4・B-5・B-6）に対しては否定的な回答が多かった。このことから、授業や学習活動において効果的にICTを導入する能力については課題があると考えられる。

（３）大項目Ｃ：児童生徒のICT活用を指導する能力

大項目Ｃに対する回答を下位項目ごとにまとめた結果を表３に示す。肯定的な回答の割合が80%を超えた項目がなかったことから、児童生徒にICTを活用させる方法を指導することに対して困難を感じている学生が多いことが伺える。とくに、コンピュータの基本的な操作方法やソフトウェアの使用法についての指導に対して否定的な回答をした学生が多く、自身がコンピュータやアプリケーションを使用できることと、使用方法を適切に指導できるか否かは必ずしも一致しないことがわかる。

表２ 授業中にICTを活用して指導する能力に対する回答の割合（％）

項目	ほとんど できない			
	ほとんど できない	あまり できない	まあまあ できる	できる
B-1 生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータなどを活用して資料を効果的に提示できる。	3.08	13.85	50.77	32.31
B-2 児童生徒に課題を明確に把握させたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータなどを活用できる。	6.15	27.69	43.08	23.08
B-3 生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータなどを活用して生徒の意見などを効果的に提示できる。	7.69	26.15	38.46	27.69
B-4 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませることができる。	7.69	30.77	44.62	16.92
B-5 グループで話し合っって考えをまとめといった学習の際に、児童生徒にコンピュータやソフトウェアを効果的に活用させることができる。	7.69	24.62	46.15	21.54
B-6 児童生徒が協働してレポート・資料・作品を制作する際に、コンピュータやソフトウェアを効果的に活用させることができる。	4.62	29.23	49.23	16.92

表3 児童のICT活用を指導する能力に対する回答の割合（％）

児童のICT活用を指導する能力	項目	ほとんど できない	あまり できない	まあまあ できる	できる
	C-1 学習活動に必要な、コンピュータの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童が身に付けさせることができるように指導できる。	7.69	33.85	43.08	15.38
	C-2 児童がインターネットなどを活用して情報収集する際に、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択できるように指導することができる。	4.62	27.69	44.62	23.08
	C-3 児童がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理できるように指導することができる。	6.15	30.77	49.23	13.85
	C-4 児童がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、自分の考えを文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめることができるように指導できる。	6.15	26.15	58.46	9.23
	C-5 児童が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアを活用することを指導できる。	7.69	35.38	30.77	26.15

表4 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力に対する回答の割合

情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	項目	ほとんど できない	あまり できない	まあまあ できる	できる
	D-1 児童生徒が相手のことを考え、ルールやマナーを守って情報を集めるよう指導できる。	1.54	18.46	40.00	40.00
	D-2 児童生徒が相手のことを考え、ルールやマナーを守って情報を発信するように指導できる。	3.08	16.92	36.92	43.08
	D-3 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、利用時間を守るなどの健康面に留意して適切に利用するように指導できる。	3.08	20.00	44.62	32.31
	D-4 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避できるように指導できる。	3.08	21.54	36.92	38.46
	D-5 児童が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導できる。	3.08	18.46	44.62	33.85
	D-6 児童がコンピュータやインターネットの便利さに気づき、その仕組みを理解しようとする意欲が育まれるように指導できる。	3.08	27.69	41.54	27.69
	D-7 児童がコンピュータやインターネットの便利さに気づき、学習に活用しようとする意欲が育まれるように指導できる。	3.08	20.00	49.23	27.69

（４）大項目D：情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

大項目Dに対する回答を下位項目ごとにまとめた結果を表4に示す。肯定的な回答が80%を超

えた項目は2項目で、児童生徒にインターネットを利用したコミュニケーションに必要なルールを指導することについて評価するもの（D-1・D-2）であった。一方で、インターネットを安全に利用

するための指導 (D-3・D-4・D-5) やインターネットを活用することの利便性を適切に指導すること (D-6・D-7) については否定的な回答が多かった。この結果から、ICTを活用したコミュニケーションにおけるルールといった情報モラルについて指導する能力はあるが、ICTを安全に活用するための知識や技能 (ネットワークリテラシー) の指導力に課題があることがうかがえる。とくに、パスワードの管理といったネットワークセキュリティについての基礎知識や技能の指導 (D-5) について不安を抱く学生が多いことがわかる。

4. 考 察

本研究では、BYODが導入され、授業や演習への参加時に個人が所有するパソコンを使用することが求められている教育学部の学生を対象にICT活用指導力についての調査を実施し、教職課程を履修している学生のICT活用指導力の実態と、BYODの導入が教育学部の学生のICT活用指導力にどのような効果をもたらしているのかを検討した。

(1) 従来のカリキュラムを履修する学生に身についているICT活用指導力に関わる要素

本研究で実施した実態調査の結果から、以下に示す2つの要素については従来の教職課程のカリキュラムを履修する学生が習得しているものと考えられる。第一は、授業準備や教材の作成等で必要とされるパソコンや情報機器、WordやPowerPointなどの基礎的なアプリケーションを使用するスキルである。BYODが導入され、個人専用のパソコンを所有していることで、大学の施設・設備の制限に影響されずパソコンを活用した学習活動が可能になったことが影響していると考えられる。この結果は先行研究 (竹野ら、2011; 森下、2014) とも一致する。

第二は、インターネットを利用した情報収集や情報発信に必要なルール等の情報モラルに関する指導に必要な知識や能力である。対象学生の多くは、高等学校で普通科情報の授業を経験し、体系的な情報教育を受けているため、情報モラルに関する基礎的知識をすでに有している可能性があ

る。また、学校外ではSNSをはじめとするインターネットサービスを活用して情報収集や情報発信を行なっている世代であり、彼らにとってデジタルネットワークを介したコミュニケーションは身近なものであるため、情報モラルを習得できる経験も豊富であったと考えられる。

(2) 従来のカリキュラムでは習得が困難であると示唆される要素

以下に示す要素については、従来の教職課程のカリキュラムを履修する学生が習得することは困難である可能性がある要素である。第一は、情報機器や通信機器、学習支援ツールを効果的に使用した授業をデザインすることである。本調査では、授業の場面で児童生徒の意見を集約する、あるいは比較する場面でICTを活用することや、児童生徒に情報機器や学習支援ツールの主体的な活用を促すような指導することについて、自身の能力を否定的に評価する学生が多かったことから、授業や学習指導の場面にICTを活用することで新たにできるようになることは何か、また、ICTを活用することの利便性について具体的なイメージが持てていない可能性がある。現在では、小学校から高等学校まで、多くの学校が電子黒板やデジタル教科書を導入しているが、それらのICT機器やデジタル教材の活用法については、まだ模索段階である学校も多い。そのため、学習者として経験したICT活用の方法は、デジタル教材 (動画や画像) や資料の提示にとどまるというケースが多いと考えられる。そのため、情報機器や学習支援ツールを使用した活動を組み込んだ授業を具体的にイメージすることが難しく、ICTを活用した授業計画の立案に課題が出ていると思われる。

第二は、授業や学習活動の場面で、児童生徒にICTを主体的に活用させるための指導力である。ICTを活用した指導を展開するためには、学習者である児童生徒が授業や学習活動に導入されるICT機器を使用できなければならないので、教員がICT機器やアプリケーションの操作方法を適切に指導できることが不可欠である。デジタル機器を自分自身で使いこなす能力を有することと、

使用方法についての知識やスキルを持たない児童生徒に対して、その技能を指導する能力は独立したものである。したがって、児童生徒にICTを活用させる技術を指導する指導法を習得する機会が必要である。

第三は、情報セキュリティに関する指導力である。本調査では、インターネットを介した情報発信やコミュニケーションのルールといった情報モラルに関する指導力については自身の能力を肯定的に評価する学生が多かった一方で、SNSをはじめとするインターネット上でのコミュニケーションで遭遇する反社会的行為のリスクを回避するための知識など、コンピュータやインターネットを安全に使用するための知識やスキルの指導については自身の能力を否定的に評価する学生が多かった。とくに、パスワードの管理や個人情報の保護といったセキュリティシステムについての指導力について否定的な評価をする学生が多かった。この結果から、多くの学生が情報機器やインターネットを利用する際のセキュリティ管理能力に不安を抱えていることがうかがえる。今日では、パソコンやスマートフォンなどの個人が使用する情報機器には様々なセキュリティ対策が施されており、使用者自身が特別な意識をせずとも最低限の安全が確保されている。また、授業などでパソコンやインターネットを使用する大学では、セキュリティ対策が行われ、安全なネットワーク環境が提供されている。そのため、日常的にパソコンやインターネットを利用している学生であっても、情報セキュリティやネットワークセキュリティについて学ぶ必要性を意識しにくいかもしれない。したがって、今後はBYODの導入を機に学生自身が利用する情報機器やネットワーク環境のセキュリティ管理について体系的に学習できる機会が必要であらう。

5. 課題と展望

本研究では、教育学部に在籍し教職課程のカリキュラムを履修している学生を対象にICT活用指導力の実態調査を実施し、従来のカリキュラムで学生が習得できるICT活用指導力の要素と、

従来のカリキュラムでは習得が難しい要素を示した。また、本調査の対象とした学生はBYODが導入され、個人専用のパソコンを所有し授業や演習に使用することを義務付けられている学生であることから、BYODの導入がICT活用指導力の育成に及ぼす効果についても一定の示唆を得ることができた。しかし、本調査で使用した「教員によるICT活用指導力チェックリスト改訂版」(文部科学省、2018)は、教育現場においてICTを効果的に活用するために必要な能力の有無について自己評価するものである。したがって、チェックリストによってアセスメントされた能力の有無は主観的な評価であるため、評価の妥当性には課題がある。今後はICTを活用した教育実践の効果検証や事例の分析も行い、ICT活用指導力についてより客観的な評価指標を作成することが望ましいだろう。

また、本調査の結果から、パソコンやインターネットを使用するスキルを備えた学生であっても、そのスキルを授業や児童生徒の学習活動にどのように活用するかが具体的にイメージできない可能性が示唆されたので、教員養成課程においてICT活用指導力を育成するためには、カリキュラム内容の検討や修正が必要だと考えられる。

注

1) ICTを活用して指導・校務にあたる能力

引用文献

- 大学ICT推進協議会 (AXIES). (2018). 「BYODを活用した教育改善に関する調査研究報告書」
https://axies.jp/report/ict_survey/2016survey/2024年12月25日閲覧)
- 文部科学省. (2011). 「教育の情報化ビジョン」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/26/1305484_01_1.pdf (2024年12月24日閲覧)
- 文部科学省. (2018). 「教員のICT活用指導力チェックリスト改訂版」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416800.htm (2024年9月30日閲覧)
- 文部科学省. (2024). 「令和5年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00062.html (2024年12月30日閲覧)
- 森下孟. (2014). 「教員養成学部生におけるICT活用指導力の現状と課題」 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 23,

201-208.

- 竹野英敏・谷田親彦・紅林秀治・上野耕史. (2011). 「教育学部所属大学生のICT活用指導力の実態と関連要因」 *日本教育工学会論文誌*, 35(2), 147-155.
- 立石登・宮澤栄一・東原義訓・橋澤宏文. (2014). 「タブレット型コンピュータを活用した授業を行った教師の意義」 *信*

州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』, 15, 65-72.

- 橋澤宏文・東原義訓. (2012). 「児童の回答を一筆ずつ再生するシステムによって明らかになる児童の実態」 *信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』*, 13, 119-126.